

第2回「第20回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会」における主な発言

議題1 取り組みの方向性について

【全体について】

- 数値目標を入れ、達成に向けたストーリーが描けると、市民も一丸となって頑張れるし、市を挙げて取り組んでいる姿勢がより明確に市民に伝わると思う。
- まずは名古屋市が持っている弱み・強みや特徴を把握し、具体的な方向性を出す段階で、明確な数値目標を出す方がよい。名古屋の特徴等の把握に関しては他都市との比較を考へても良い。
- 方向性の対象に、この地域の企業や事業者、大学を含めた教育機関を含めて考えるべきである。
- アジア競技大会がスポーツイベントであることを踏まえ、スポーツの価値をそれぞれのまちの姿の中でどう生かせるかということ立ち戻って考えるべきである。
- アジア競技大会をコアとして、そこで何を成し遂げ、その発展形として名古屋、愛知にどういったようなインパクトをもたらすかという二重構造を整理したほうが良い。
- まちの姿の様々な部分が重なり合って拡がるという立体構造をモデル化できるとよい。また、優先順位や時間軸の意識もあると良い。
- レガシービジョンとして「持続可能な発展」を掲げるのであれば、名古屋がSDGsの視点に立って、このアジア競技大会をどんな観点で開催して、どんな観点でまちづくりにつなげようとしているのかを、もう一回見直してみることも有用ではないか。SDGsは先進国と途上国共通の地域発展目標であるので、アジアの諸国の方にも理解してもらいやすい。
- まちの姿として「ネットワーク」を加えてはどうか。アジア競技大会でこの地域が非常に注目されるので、現在あるこの地域とアジアとのネットワークを再認識し、強化する大きな機会となる。「アジアとの交流結節点としての「名古屋・愛知」というまちの姿を描くことができる。具体的には名古屋・愛知からアジア各地へ進出した企業等産業を通じたネットワークや留学生を介したネットワークが考えられる。

【まちの姿1について】

- スポーツだけでなく、レジャーや階段昇降等の身体活動を含めて考え、新しい指標で名古屋スタイルを構築してはどうか。それに当たっては、「①活動的なライフスタイル」の部分を「アクティブライフ」という言葉に置き換えても良いのでは。
- 東京都では「アクティブライフ」という言葉を使っているが、名古屋市の既存計画、次期総合計画との整合や、市民に分かりやすい言葉かを勘案して、検討すべきである。

【まちの姿2について】

- 現段階ではアスリートのロールモデルをイメージすることができない。アスリート支援の観点でいうと、愛知県または東海地区出身のアスリートのロールモデルとなるような過去のアスリートの情報を集約する必要がある。

- アスリートの育成については、アスリートの生涯に焦点を当てることが必須である。本来オリンピックは、その体験や意義を一般市民や後進に伝えていく必要があると思うので、そういったきっかけづくりや環境を整えることも取り組みとして考えられる。
- インバウンドのターゲットを外国人に留めず、国内の需要喚起について考えていくことも大事である。
- ブランド力を高めるために、人が来て、見て、体験することが重要で、そのためにもスポーツツーリズムやスポーツMICEをもう少し意図的に展開させてもいいと思う。交流人口の増大についてもっと大きく取り上げた方がよい。
- 名古屋は空間的・時間的・経済的なゆとりの3つが揃っており、住みやすいのにアピールしきれていない。アジア競技大会を通して、健康やスポーツなどが、トータルで見たり楽しめるようなライフスタイルをいかに作っていくかが非常に大切である。

【まちな姿3について】

- まちな姿の標題は、理解や学びだけではなく、「多文化共生」、「ダイバーシティ」、「寛容力のある社会」というような、もう少し踏み込んだ都市のイメージの方が良いのでは。
- 外国人の活躍する土壌の創出や、国際交流に関して、従来行っているものから一步踏み込んだ、より具体的な取り組みの方向性が見えてくると良い。
- まちな姿3のみ取り組みの方向性に、スポーツという言葉が一つも入っていない。スポーツからどんな人間をつくり育てていくのかを、まだ上手くイメージできていないことが分かってしまう。どのように「スポーツ」を使うかを深めていければいいと思う。
- 名古屋が様々な都市、国とつながるネットワークの1つのハブとなるという視点で、企業や事業者の参加を促し、彼らの力・知識・スキルなどを借りて大会を盛り上げていくとともに、企業が持っているノウハウや海外とのネットワークを今後にかす機会でもある。

【まちな姿4について】

- 標題に掲げられている、「大会モデル・先端技術」はアプローチの手法であり、先端技術や大会モデルに裏付けられた持続可能な都市というのが都市のイメージの本質ではないか。
- 「③スポーツに親しむ場の整備」については、アスリートにも市民にも、メジャースポーツにもマイナースポーツにも活用できるように、使い勝手の幅を広げていくような運用を考えることが大事である。
- 多くの国々が集まる非常によい機会なので、開会式の演出などで先端技術をPRするような場にできたらいいのではないか。また、最先端技術の実証実験を選手村などで行い、海外の人の意見も収集するのもよいと思う。
- eスポーツなど、AIの中でどう発展していくかを、名古屋の先端技術を使って見せていく。それをどう活用するかというのが非常に面白いと思う。
- この大会を機にうまく新しい産業を生み出していければ、今後も名古屋圏の産業が非常に豊かになる。

議題2 理念・題名について

【理念について】

- 一文が長いので分割しても良いのでは。
- 多くの人にわかりやすいようにやさしい言葉を使うとともに、例えば中高生からの視点を意識すると、すごく伝わりやすいものがつくれるのではないだろうか。
- 問題意識として例示されている社会経済情勢の変化が、あるべきまちの姿とリンクしていない印象なので、対応させるように検討しても良いのでは。
- 都市ではなく「人」を主体に書き、読んだ市民自身が主役だと思ってもらえるような形にする方が良い。
- 「アジアとともに持続的に発展する」という言葉では漠然としすぎており、アジアとの関係においてフィジカルな都市空間、社会・文化、人づくり、経済など何をどのように発展させて、持続可能な発展をとげようとしているかを示す必要がある。
- 自都市のブランドを追うだけでなく、アジアの諸都市との相互理解の機会と捉え、スポーツを通じた交流の可能性や大切さを認識することが重要である。
- 愛知県と良い形で調整できるとよい。名古屋市民は愛知県民でもあるので、二つ合わせて相乗効果が生じるような調整ができるとよいと思う。
- 「あるべき姿」がビジョンだと思うので、理念にその内容を含むべきだなと思う。

【題名について】

- 正題も堅い感じがある。正題と副題を入れ替えたいうで、入れ替えた副題をもう少し柔らかくすることも検討しても良いのではないか。
- 英語をそのまま使うという方向も考え方としてはあるのではないか。
- 「レガシー」という言葉自体は、ある程度認知されてきていると考えられる。副題に、レガシーの日本語訳のようなものを入れると、正題と意味が重複してしまう。
- 副題の要素として、「健康」「健やかに」等、健康やスポーツに結び付くような言葉が入っていても良いのでは。
- スポーツの価値は、単に体が病気にならない、筋肉が付いていくという事だけではなく、自分自身が生きていて良いと思える、病気であっても未来を考えて暮らしていけるということを含むので、「健康」に加えて、「自分らしく」という要素も入れたほうが良い。
- SDGsの中では「Well-being」という言葉が用いられており、身体的、心理的、精神的な健康、自分らしく生きることが全部包含されている言葉なので一つの選択肢としても良いのではないか。